

2014 年度
メディア基盤センター年報

[学外向け]

平成 28 年 11 月 9 日

山口大学大学情報機構メディア基盤センター



目次

1. 巻頭言	3
2. センターの活動.....	5
2.1 今年度のプロジェクト概要.....	5
2.2 各プロジェクト報告	7
2.2.1 IR 支援システム開発	7
2.2.2 広報改善プロジェクト.....	10
2.2.3 教材コンテンツ利活用促進プロジェクト	12
2.2.4 MOODLE 関連プロジェクト	14
2.2.5 学認フェデレーションプロジェクト	16
2.2.6 学内利用者のための教職員ポータルの更新.....	17
2.2.7 学内バックアッププロジェクト.....	19
2.2.8 インシデント管理見直しプロジェクト.....	20
2.2.9 ISMS 文書管理のための文書管理システム機能の検討.....	22
2.2.10 ISMS 研修会テキスト作成.....	24
2.2.11 ISMS 研究会	25
2.2.12 TOEFL IBT 導入.....	26
2.2.13 映像ライブ配信.....	27
2.2.14 3D プリンタ導入検討	28
2.2.15 電力スマートグリッド開発.....	29
2.2.16 ネットワークマナーブック改訂.....	30
2.2.17 大学向け ERP モデル概念設計	31

2.2.18 知的財産センターへの ISMS 導入	32
2.2.19 UPKI 証明書プロジェクト	33
2.2.20 演習用計算機システムの管理・保守	35
2.2.21 バックアップ電源施設運用開始プロジェクト	37
2.2.22 修学支援システムの連携強化プロジェクト	39
2.2.23 常盤センターサーバー室空調保守	40
2.2.24 IC カードプロジェクト	41
2.2.25 TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守	43
2.2.26 省エネルギー化プロジェクト	46
2.2.27 迷惑メール対策システム	48
2.2.28 全学ネットワークの維持・保守	50
2.2.29 各種サーバ (大容量サーバ・メールサーバ等)の維持・保守	52
2.2.30 サーバ室主要部分の設備維持	54
2.2.31 高速計算サービス運用プロジェクト	56
2.2.32 IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験	57
2.2.33 WEBMAIL の管理・保守	58
3. センタースタッフ紹介	59

1. 巻頭言

メディア基盤センター長
小河原加久治

今年度、メディア基盤センターが係わった事業として特筆すべきこととして、ソフトウェアライセンスとパソコンの利用管理台帳の作成開始が挙げられる。詳しくは別稿で述べられるが、ここでは簡単に背景を記すことにする。先ず、山口大学においての教職員による物品購入は“物品請求オーダーリングシステム”を介して一元的に行われている。これは、コンピュータあるいはソフトウェア製品に関しても例外ではない。しかし、コンピュータは構成要素が部品として各々別個に購入される場合もあるため、物品購入台帳からだけでは、どれだけのコンピュータを何処で利用しているのかを正確に知ることはできない。ソフトウェアに関しても、何らかの情報システムの一部として構成要素になっている場合には、購入履歴から現在利用されているソフトウェアライセンスの実数を正確に知ることはできない。山口大学が法人としてソフトウェアライセンスを適切に管理していることを証明するためには、どのソフトウェアライセンスが、どのコンピュータで利用されているかを管理する台帳が存在しなければならないことになるが、平成 26 年度当初の段階では、そのような台帳は存在しなかった。この状況を認識するきっかけとなったのは、マイクロソフト社からのソフトウェアライセンス監査要請であった。

この監査要請に対して、山口大学としてはマイクロソフト社製品だけではなく、全ての有料ソフトウェアに対して購入・利用・廃棄の記録を台帳化し、永続的に管理・更新することを情報基盤整備委員会で決定した。実際の台帳の作成および管理は、情報基盤整備委員会の下部組織である情報システム検討部会で行うこととなった。事務担当は情報環境部の情報推進課である。

この取り組みの最終目標は、ハードウェアとしてのコンピュータの台帳と、山口大学が所有するソフトウェアライセンスが、どのコンピュータで使われているかを示すソフトウェアの台帳を整備することであるが、本年度は、その第一段階として利用されているコンピュータの調査を行った。この調査にはマイクロソフト社から提供いただいた専用の調査ソフトウェアを使い、各コンピュータにインストールされているソフトウェア製品を自動収集する手法を採用した。この自動調査ソフトが動作しないシステムに関しては、手動でデータを入力していただいた。この利用ソフトウェアの調査に際しては、ハードウェアとしてのコンピュータ管理番号を事前に配布し、来年度以降の調査でも使えるようにコンピュータの筐体に貼り付けてもらうこととした。詳しくは本年報の別稿を参照されたい。

山口大学の情報セキュリティ維持に関する、メディア基盤センターとしての取り組みとして ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の構築・維持がある。この ISMS 認証取得当初は適用範囲がメディア基盤センターのみであったが、現在はメディア基盤センターが属する大学情報機構だけでなく、大学教育機構、大学研究推進機構の三機構の特定部署が

適用範囲となっている。この三機構は夫々大学全体にサービスを提供する部局であり、山口大学の情報セキュリティポリシーに記されている、“ISMS文化を大学全体に広げる”役割をになうという意味では、基点となるべき組織である。本年度は、この三機構に加えて、工学部を適用範囲とするための検討が開始された。詳しくは別稿を参照していただきたいが、ここで述べておきたいのは、山口大学のISMSは“セキュリティ文化を大学に浸透させる”為のものであり、参加する部局が保有する情報システム全てを網羅することを意図していないということである。つまり、ISMS認証取得する（適用範囲とする）のは参加部局の限られた一部の情報システムに限られるとしても、その適用範囲となる人員は適用範囲外の情報システムに対しても確たるセキュリティ意識を持って業務にあたることができると考えている。

2. センターの活動

2.1 今年度のプロジェクト概要

メディア基盤センターの日常業務，試作作業，開発・研究等の諸活動の予算や実施内容を透明化すべく，各教職員が関わっているプロジェクト等の申請（申告），及び報告書提出を義務付けています。

全部で 37 件のプロジェクトが活動致しました。これら 37 件のプロジェクト名称とメンバーは表 1 通りです。

表 1 センタープロジェクト一覧

No.	プロジェクト名	代表者氏名（メンバー）
1	講習会サービス(検討・準備・実施)	小田切 和也（杉井，為末）
2	IR 支援システム開発	王 躍（久長，松元，小柏）
3	広報改善プロジェクト	小河原 加久治（杉井，小田切）
4	教材コンテンツ利活用促進プロジェクト	杉井 学（深川）
5	Moodle 関連プロジェクト	王 躍（赤井，永井，石田）
6	学術認証フェデレーションプロジェクト	為末 隆弘（久長，王，永井，金山，西村）
7	学内利用者のための教職員ポータルの更新	久長 穰（小田切，金山，王，奥本，守永，東，西村）
8	大学間バックアッププロジェクト	小田切 和也（小河原，久長，永井，為末，西村，中村）
9	学内バックアッププロジェクト	為末 隆弘（久長，小田切，西村，金山，中村）
10	インシデント管理見直しプロジェクト	永井 好和（王，杉井，金山）
11	ISMS 文書管理のための文書管理システム機能の検討	赤井 光治（王，田中）
12	ISMS 研修会テキスト作成	永井 好和
13	ISMS 研究会	小河原 加久治（永井，王，石田）
14	TOEFL iBT 導入	杉井 学（為末，久長）
15	映像ライブ配信	杉井 学（金山）
16	3D プリンタ導入検討	杉井 学（赤井，西村）
17	電力スマートグリッド開発	杉井 学（赤井）
18	ネットワークマナーブック改訂	杉井 学（國分）
19	大学向け ERP モデル概念設計	永井 好和
20	大学研究推進機構への ISMS 導入	永井 好和（久長，木村）
21	UPKI 証明書プロジェクト	為末 隆弘（久長，王，永井，金山，西村，奥本，守永，山岡）

22	演習用計算機システムの管理・保守	爲末 隆弘 (久長, 王, 赤井, 杉井, 石田, 金山, 西村, 奥本, 守永, 山岡)
23	バックアップ電源施設運用開始プロジェクト	赤井 光治 (久長, 杉井)
24	修学支援システムの連携強化プロジェクト	王 躍 (久長, 山岡)
25	ビッグデータ利用整備のための調査	石田 春磨
26	衛星リモートセンシングデータ利用推進プロジェクト	石田 春磨
27	常盤センターサーバー室空調保守	赤井 光治 (西村, 奥本)
28	IC カードプロジェクト	久長 穰 (永井, 王, 爲末, 西村, 金山, 東)
29	TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守	久長 穰 (杉井, 爲末, 小田切, 石田, 王, 西村, 金山, 奥本, 守永, 東)
30	サーバー室省エネルギー化プロジェクト	小河原 加久治 (赤井, 石田, 西村)
31	迷惑メール対策システム	久長 穰 (杉井, 爲末)
32	全学ネットワークの維持・保守	久長 穰 (杉井, 王, 爲末, 小田切, 石田, 西村, 金山, 奥本, 守永, 東)
33	各種サーバ(大容量サーバ・メールサーバ等)の維持・保守	久長 穰 (杉井, 爲末, 西村, 金山)
34	サーバ室主要部分の設備維持	久長 穰 (爲末, 西村)
35	高速計算サービス運用プロジェクト	赤井 光治 (西村, 奥本)
36	IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験	爲末 隆弘 (小河原, 久長, 石田, 西村)
37	Webmail の保守・管理	爲末 隆弘 (久長, 金山, 西村)

2.2 各プロジェクト報告

2.2.1 IR 支援システム開発

【D.業務・教育研究課題】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：システム開発助言

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

松元 隆博

大学評価室・准教授

担当：大学評価室企画運営・システム開発助言

matugen@yamaguchi-u.ac.jp

小柏 香穂理

大学評価室・助教（特命）

担当：大学評価室企画運営・システム開発助言

ogashiwa@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

大学評価室が企画・運営を行う IR 支援システムの開発を行う。

市川教授が開発された評価システムを、今年度も引き続き利用できるようにするために、今年度版評価システムを構築する。また、法人評価、認証評価に対応できるように、大学評価室と連携し、更なるシステムの充実をはかる。

2. 活動内容

大学評価室活動計画に従って、開発を行った。

- ステークホルダーからの情報収集システムの新規構築

工学部技術部の協力のもとアンケートシステムを開発しました。HTML やデータベース等の知識がなくても Web 上でアンケートの作成と実施ができるシステムです（図 1）。このシステムでは択一選択、複数選択、自由記述の 3 種類の形式で設問を作成でき、アンケート結果をグラフや CSV ファイルで出力できます。また、紙媒体でのアンケート実施に対応するために Excel ファイルでの入力もできるようにしています。学内関係者だけに制限した場合は各部局ごとの入力率も分かるようになっていました。すでにこのシステムは平成 26 年度末に実施された「大学の目的等の周知状況に関するアンケート」で活用されています。

大学評価室アンケートシステムの画面例

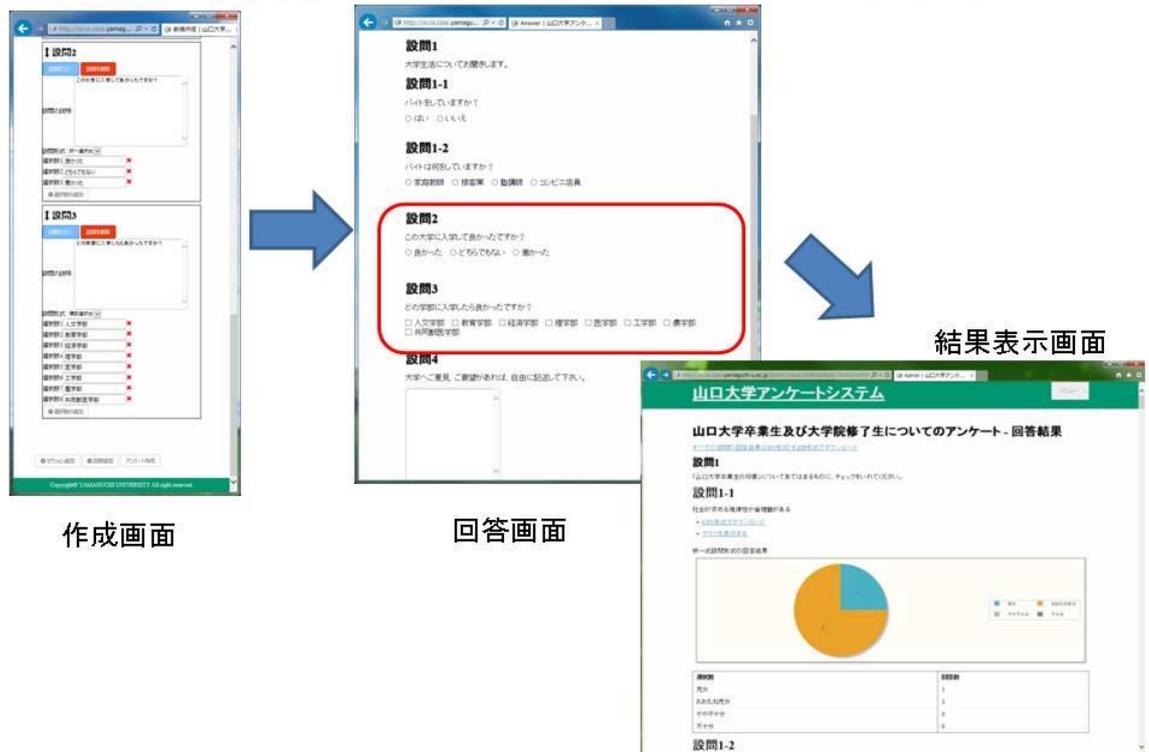


図1 アンケート新規作成画面

- 教員活動の自己点検評価システムの機能追加
- 組織活動情報集約システムの機能追加

組織活動の自己点検評価システムに、レーダーチャート機能を追加しました。従来、各基準において入力した点検評価の数値（達成度を表す数値：5段階評価）が表示されていましたが、レーダーチャートにより可視化することで、各学部の学科間の比較を一目で確認できるようになりました。図2の例では、A学部の4学科の例を示しています。1つの線が、1つの学科を表しています。

組織活動の自己点検評価システム

レーダーチャート: A学部

各基準において入力した点検評価の数値(達成度を表す数値:5段階評価)の平均を示しています。

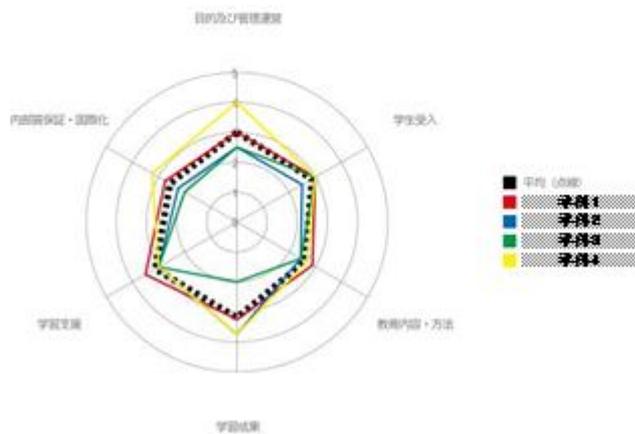


図2 組織活動の自己点検評価システム (レーダーチャート機能)

3. 今後の展望

今後も法人評価, 認証評価に対応できるように, 大学評価室と連携し, 更なるシステムの充実をはかっていく予定です。

平成27年4月7日

2.2.2 広報改善プロジェクト

小河原 加久治

メディア基盤センター・センター長
ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学
メディア基盤センター・准教授
担当：マネージメント
manabu@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍
メディア基盤センター・准教授
担当：吉田センターのコンテンツの充実等
wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

小田切 和也
メディア基盤センター・准教授
担当：小串センターのコンテンツの充実等
odagiri@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

メディア基盤センターでも、これまでの受動的広報活動（発生した事象に対応するための広報）に加え、能動的広報活動（ブランドイメージの想像や戦略的な情報発信）を積極的に導入していく必要がある。

本プロジェクトでは、メディア基盤センターの広報体制の見直しを行い、Web ページの充実、年報の発行、各種コンテンツの整理・充実を図ることを目的とする。特に、利用者にとって欲しい情報をわかりやすく提供する仕組みの構築と、センターで行われているサービスや業務内容の公開・広報に力点を置く。

2. 活動内容

2.1 広報戦略の検討

メディア基盤センターからの情報発信について、広報する情報の内容（例：システムの説明や利用法、障害情報、講習会等の開催案内、事務手続き手順、メディア基盤センターの業務など）を調査・分類し、それぞれの内容について、方法（媒体）、ルート、時期などを検討した。

2.2 広報物制作

年報の制作をマネージメントするとともに、情報発信用のポスター、小冊子、展示物などの制作を企画する。また、従来作成している広報物（印刷媒体および電子媒体を含む）を整理し、「いつ、どこで、だれに」を考慮した、広報効果の高い手段の検討を行った。

2.3 メディア基盤センターWeb ページの改善

メディア基盤センターWeb サイトの改善を随時進める。特に情報の古くなったページやWeb ページに掲載があるものの利用者が見つけられず電話での問い合わせのあったページ

などの改訂とリンクカテゴリの再検討などを行った。

3. 今後の展望

- ブランドイメージの確立
- 広報物制作（ポスター、映像コンテンツ等）
- これまでに蓄積しているデジタルコンテンツを有効活用する。
 - ウェブページへのリンク
 - デジタルサイネージ端末での表示
- オープンキャンパスや大学情報機構が企画・開催する広報活動に参加・協力

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.3 教材コンテンツ利活用促進プロジェクト

杉井 学

大学情報機構メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

深川 昌彦

情報環境部情報推進課システム第 I 係・係長

担当：データベースマネジメント

masahiko@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

e ラーニングシステムの利用は当たり前の時代となり、授業支援システムや e ラーニングコンテンツの利用は多くの現場で行われている。しかし、依然としてデジタルコンテンツを用いた教育教材の作成には大きなコストが発生し、外注には金銭的成本が、自作には人的コストが大きいしかかる。

本プロジェクトでは、「どのようにコンテンツを作成すればよいのか」「どのような作り方があるのか」などの基礎的な知識の教授や「素材コンテンツの流通促進によるコンテンツ作成コストの削減」などを目的にし、ハードおよびソフトの両面から全学的な視野に立った幅広い活動を行う。

2. 活動内容

2.1 教材コンテンツ制作環境整備

デジタルコンテンツ作成に必要な、カメラ、映像・音声編集機器、e ラーニングコンテンツ作成機器などの補充と必要な環境整備を予定していたが、補充物品等の必要はなかった。

2.2 教材コンテンツ制作コンサルティング

e ラーニング教材を中心にしたデジタルコンテンツ制作に関するコンサルティング活動を行うと同時に、これまでに整備を進めてきたデジタルコンテンツ制作環境（スタジオ、eClass Navigator、演習室遠隔講義など）の利活用促進の広報活動を行った。

3. 今後の展望

- 教材コンテンツ作成環境の維持
- コンテンツアーカイブシステムへのコンテンツ登録拡大のための広報（コンテンツの流通促進）
- 蓄積コンテンツの利用拡大活動（蓄積コンテンツの整理と学外発信）

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.4 Moodle 関連プロジェクト

【NP.業務課題】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

担当：Moodle 技術全般

ogashiwa@yamaguchi-u.ac.jp

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

担当：開発のマネジメント

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要 2012 年は MOOC 元年と呼ばれています。MOOC とは「大規模公開オンライン授業」の意味で、大学などの高等教育機関がインターネットを通じて公開している講義・履修コースのことを指しています。また、その配信プラットフォームであるサービスを指すこともあります。インターネットさえにつながれば、MOOC を利用して世界トップクラスの大学の講義や、著名な学者による講義などを受けることができます。日本では、2013 年の 10 月に「日本オープンオンライン教育推進協議会（略称：JM00C）」が設立されました。

現在、Moodle をベースに機能を拡張して MOOC としての利用や反転授業に対応するという試み（開発）も行われています。本プロジェクトは、MOOC の新しいコンセプトが e ランニングに新しい可能性をもたらすことをかんがみ、山大の Moodle サービスをさらに充実させるため、利用者支援の視点からより安定な運用とより便利な利用を目指します。

また、Moodle の利用者が多くなり、多種多様な要望が出されている。その中でも特に注目すべき機能として、データ分析による教育評価が重要視されている。そこで、その教育評価のための拡張機能を検討する。この機能が実現すれば、学生の到達度の向上や、教員の授業指導の改善が期待されると考えられます。本プロジェクトは、利用者の必要に応じてこのような拡張機能開発も行います。

2. 活動内容

(1) JM00C を含め、MOOC に関する情報収集・分析

JM00C (Japan Massive Open Online Courses) は、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会が、日本版 MOOC の普及・拡大を目指し、2013 年に設立された日本全体の大学・企業の連合による組織。現在、JM00C 公認配信プラットフォームは、gacco、OpenLearning、Japan、OUJ MOOC があります。gacco

は NTT ドコモ社と NTT ナレッジ・スクウェア社が提供、OpenLearning, Japan はネットラーニング社が提供、OUJ MOOC は放送大学が提供しています。また、JMOOC サイトは複数の講座配信プラットフォームをまとめるポータルサイトの役割を果たします。動画を用いる受講形態の講座が多いですが、一部の講座では講義映像に登場する先生本人に、直接教えてもらえる反転学習コースもあります。

一方、大学等で（「非営利の教育目的」で）正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動は OCW (Open Course Ware) といいます。OCW が単に講義を「視聴する」だけだったのに対し、MOOC のサービスは、オンラインのテストがあったり、学習者間のコミュニケーションがあったりと、かなり学びの仕組みが整っているといった相違があります。それと受講修了者には「修了証」を 発行するようになった点も大きな違いです。

(2) 仮想サーバでの Moodle サイトの構築

Moodle2 (現在 2.7 バージョン) サイト (mdcs4.cc.yamaguchi-u.ac.jp/moodle) を仮想サーバでの構築を行いました。mdcs4 サイトは、1 台 reverse_proxy サーバと、3 台 Web サーバと、3 台 DB サーバ (クラスタ) から構成されています。それぞれの Web サーバは、別々の DB サーバにアクセスするように設定していますので、DB サーバへの read-only パフォーマンスの向上・耐故障性・負荷分散の改善に期待できます。

(3) Moodle2 への移行促進

Moodle2 への移行促進のための仮想サーバによるサイトを構築し、移行準備作業をしています。

(4) 教育評価のための Moodle 機能の検討・開発

Moodle のルーブリック機能を使って、簡単に点数化することが困難なパフォーマンスに対して適切な評価を行うことが可能になります。

3. 今後の展望

JMOOC や JOCW などのこれからの動向を注目しながら、新しい Moodle 2 サイトへの移行促進を進めたいと思います。

平成 26 年 4 月 6 日

2.2.5 学認フェデレーションプロジェクト

【 D.業務・教育研究課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：認証基盤構築・試行運用支援

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

担当：認証基盤構築・試行運用支援

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：認証基盤構築・試行運用支援

momo@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：認証基盤構築・試行運用支援

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：認証基盤構築・試行運用支援

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要** 全国の大学等と国立情報学研究所(NII)の連携によって、学術 e-リソースを提供・利用する大学・機関・出版社等から構成される学術認証フェデレーションの構築・運用が本格的に開始されている。本年度も試行運用フェデレーションに継続参加し、ダミーデータによる実証実験に基づく技術的検討を引き続き行う。

2. 活動内容

以下を実施した。

- ・ 学術認証フェデレーション試行運用への継続参加
- ・ Sp・Idp サーバの運用し、ダミーデータによる実証実験
- ・ 学内 sso 用の Idp サーバの構築

3. 今後の展望

- ・ 学内 Sp サーバとの連携

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.6 学内利用者のための教職員ポータルの更新

【 NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

小田切 和也

メディア基盤センター・准教授

担当：

odagiri@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

kayo0217@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要 教職員ポータルは、平成17年の電子計算機システムの更新に伴い、事務系のグループウェアを更新する形で、学内システムとして導入した。教職員ポータルには次の機能を有しており、事務業務での利用頻度は高い。

掲示板、施設予約、共通フォルダ、スケジュール管理、諸手続、学内委員会資料配布、通知集会施設予約は、第1, 2TV会議室、事務局会議室、医学部、工学部等の会議室の予約に利用されている。共通フォルダは、各事務文書の作成、保管等に利用されている。

スケジュールは、学長、副学長、部局長等のスケジュール管理に利用されている。

これまでは、事務系のシステムとして運用していたが、多くの利用者の要望の応えられるものに更新を進める

2. 活動内容

(1) 教職員ポータルについて、以下の改修を検討し実施した。

- 「施設予約」
 - ・ 当該施設の情報（場所，収容定員，スクリーンの有無，管理者等）を表示させる。
- 「教職員アドレス一覧」
 - ・ 検索メニューでフリガナの部分検索を可能にすることで利便性を向上させる。
- 「通知集」
 - ・ ソート機能を追加し通知の一覧を見やすくする。
- 「掲示板」
 - ・ 部局毎の掲示板機能を追加し、タブレット・スマートフォン対応を行った。
- 個別機能以外の部分についての改修
 - ・ サーバへの負荷分散を行うことにより、アクセスが集中する時間帯における動作速度の低下や、共通フォルダにアクセスしづらい状態の発生を防止する。特に、共通フォルダのディスクの増設を行った

(2) 以下の機能については、引き続き改修予定した。

- 「スケジュール管理」
 - ・ 定期的開催される行事について一括で入力できる機能を追加し利便性を高める。
(一括入力した情報を個別に修正できるようにするかどうかについては要検討。)
 - ・ スケジュールの調整（日程照会）機能を新規追加することで、外部のソフトウェアに情報入力を行う手間を省く。
 - ・ 時間帯の重複する予定入力の際、警告メッセージを表示させるようにし、誤入力を防止する。

3. 今後の展望

現在の教職員ポータルはメディア基盤センターのホスティングサーバ上で動作しているので、今後ともホスティングサーバの増強及び負荷分散を進める。特に、教員が利用できるネットワークディスクの充実を検討する。

2.2.7 学内バックアッププロジェクト

【 NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

小田切 和也

メディア基盤センター・准教授

担当：運用・保守

odagiri@yamaguchi-u.ac.jp

中村 由己

情報環境部情報推進課・課長

担当：運用

ke070@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要学内情報システムのデータバックアップサービスを提供する。

2. 活動内容

以下の情報システムのデータバックアップを行った。

- ・ 財務会計システム
- ・ 教務システム
- ・ 医療情報システム

3. 今後の展望

- ・ 安定・継続的なバックアップサービスの提供
- ・ バックアップ対象システムの範囲拡大

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.8 インシデント管理見直しプロジェクト

【D.業務・教育研究課題】

永井好和

メディア基盤センター・准教授

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当： trac 等の IT サポート

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

杉井学

メディア基盤センター・准教授

担当：管理手順検討やアプリケーションシステムサポート

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：Web 関連プログラム開発

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要** 2013 年度更新したインシデント管理システムの試行を継続・評価するとともに、ISMS 適用範囲内におけるインシデント記録の定着を図る。

2. 活動内容

- (1) ISMS スタッフ会議で報告されるインシデントについて、trac への登録を確実にする為、席上で報告内容を trac システムに入力し同システムのインシデント台帳に登録することとした。
- (2) 昨年度より試行していた trac 活用のインシデント管理システムを、今年度より ISMS 適用範囲における管理ツールとして運用を継続した。(OpenID による個人認証を利用)
- (3) 今年度(2014 年度)においては、検知したインシデントの確実な記録を目指す為、コスト計算については実務上可能な場合のみ実施することとした。
- (4) インシデント管理に必要なデータ項目の見直しや原状復帰以後の再発防止に向けた組織的活動の充実については、インシデント記録の習慣の定着を優先し来年度に繰り越すこととした。

3. 今後の展望

インシデント管理に関する課題としては、次の点があげられる。

- (1) 原状復帰を最優先とする障害対応の中で、必要な記録を残すこと。
- (2) 人の活動や組織的弱点を含めて、恒久対策を組織的に且つ確実に実施すること

と。

ISMS 運営組織全体が、担当する業務におけるトラブルをなくし、学内外の他部署にかける迷惑をなくすためにも、人の活動を含めた仕組みとしてのインシデント管理システムを改善が求められており、スタッフ全員による PDCA を通した活動を推進していく必要がある。

2.2.9 ISMS 文書管理のための文書管理システム機能の検討

赤井光治

メディア基盤センター・准教授

akaikoji@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

田中 吉彦

情報基盤係・係長

担当：システム構築・運用

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

担当：システム利用・検証

li342@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

ISMS の運用では多くの文書ファイルを適切に管理することが必要となる。現在、この文書管理は教職員ポータルシステムを用いて運用している。しかし、ISMS 文書管理を効率的に行うよう設計されてはいない。一方、組織内文章管理のために無償で利用可能なコンテンツ管理システムもあり、それらのシステムを利用することで、ISMS 文書管理が効率的に行える可能性がある。

本プロジェクトではこのようなコンテンツ管理システムを ISMS 文書管理で試験的に利用し、ISMS 文書管理を効率的に行うための機能を検討・検証を行う。

2. 活動内容

まず、文書管理システムである Alfresco の機能であるが、大雑把には以下のようになっており、バージョン管理が容易に行える可能性がある。

Alfresco による文書管理機能

- * サイト（管理文書のグループ）ごとに管理・運用の権限設定が可能。
 - ▲ サイト参加者の権限設定はサイト管理者が設定、変更できる。
 - ▲ 各ユーザは各自の関連サイトに対し、コースごとの権限の種類が確認できる。
 - ▲ 権限の種類については、検討課題
- * マウス操作でファイルをアップロード可能。ディレクトリ単位でできることを期待。
 - ▲ Alfresco はファイルのみ対応。
 - ▲ ディレクトリの移動は可能
 - ▲ ファイル操作、ディレクトリ操作については log が残ること。また、時系列で、その内容が各サイトについてそのサイトに関わる全利用者から確認できること。

- ◇ Alfresco で可能かどうかは未確認。
- * ファイルのバージョン管理が自動でできること。
 - ▲ ファイルをアップロードするときに、過去のファイルを残したまま、更新ファイルを追加できる。
 - ▲ バージョン更新、リビジョン更新の違いが可能であると便利 (Alfresco 機能)
 - ◇ アップロードファイルのファイル名を統一名+バージョン番号+リビジョン番号に変更して表示
 - ▲ ファイル編集時、他の利用者はファイル更新にロックがかかる。また、そのことが分かるように表示される。

このことをふまえ、実際の ISMS の活動において、バージョン管理機能が有効に機能するかどうかを確認した。具体的には ISMS のフォローアップにおける文書修正やその対応に伴う文書管理で Alfresco を利用した。結果としては、バージョンは適切に管理することができ、Alfresco のバージョン管理機能に有効性があるとの結果であった。

3. 今後の展望

まだ、十分な検証には至っていないため、引き続きこのソフトの機能を調査する必要がある。

2.2.10 ISMS 研修会テキスト作成

【D.業務・教育研究課題】

永井好和

メディア基盤センター・准教授

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

テキスト作成

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

毎年実施している ISMS 研修会で使用するテキストについては、毎年講師の手で作成し印刷して使用している。2014 年度には、改正された国際規格に準拠したテキストを新たに作成する事になり、2015 年度以降も継続して使用する事になる見込みである。

本学の研修会には、中四国地方を中心とする他大学からも受講者もあることから、製本されたテキストを作成することが望ましい。そこで、2014 年度の ISMS 研修会向けに作成するテキストを整理し、一般的な大学教職員の為の ISMS 入門テキストとして纏める。

2. 活動内容

- (1) 2014 年度 ISMS 研修会用のテキストを作成し、2014 年 5 月の「ISMS 研修会」で使用した。
- (2) 2015 年 3 月末日現在、大学における ISMS に関する初歩的知識を整理・補足して、ISMS 入門テキストとして再編集すべく準備中である。

2.2.11 ISMS 研究会

【D.業務・教育研究課題】

小河原 加久治

メディア基盤センター長
ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

小河原加久治
メディア基盤センター長
研究会幹事校対応
ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

永井 好和
メディア基盤センター・准教授
研究会幹事校対応補佐
ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍
メディア基盤センター・准教授
研究会幹事校対応補佐
wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨
メディア基盤センター・助教
研究会ホームページ維持管理
ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

情報系センター協議会の中の ISMS 研究会の幹事校として全国国立大学の ISMS 普及活動を行っている。当研究会のホームページ用サーバは、本学内にあり内容更新などを担当している。

2. 活動内容

(1) 毎年秋の学術情報処理研究会において、ISMS 研究会セッションを設定している。2014 年度の開催担当は静岡大学であるが、本学からも小河原、王、永井の 3 名が出席した。

(2) ISMS 研究会のホームページの維持管理を行う。具体的には、2014 年度研究会の開催記録や改正規約をホームページに反映した。

3. 研究報告

(1) 参考文献 ISMS 研究会ホームページ

<http://sigisms-nipc.cc.yamaguchi-u.ac.jp/>

2.2.12 TOEFL iBT 導入

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：試験用端末関連

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：ネットワーク関連

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

アメリカ合衆国の NPO である Educational Testing Service(ETS)が主催する TOEFL：トーフル (Test of English as a Foreign Language) のインターネット形式で実施される TOEFL iBT テスト用システムの導入を検討し、TOEFL iBT テストセンター設置を目指す。

2. 活動内容

- 山口大学における TOEFL ペーパー版テスト (PBT) の受験状況調査を行い、学生支援センターの把握している範囲で年間数名 (5~6 名程度) の受験者がいることがわかった。
- TOEFL iBT センター認定に必要な条件を調査し、必要な PC 環境に関する仕様書を入手した。
- TOEFL iBT テストセンター設置場所を検討し、人文学部第 4 講義室とした。
- TOEFL iBT テストセンター設置の使用を満たす環境を、教育用計算機システムの一部として、上記設置場所に整備した。

3. 今後の展望

- TOEFL iBT テストセンターの基準を満たす PC およびネットワーク環境は整備することができた。しかし運用・維持体制の検討を今後も継続する必要があり、機材に関する課題は少ないと考えられるが、実施体制の維持 (土日出勤のスタッフ確保) などに課題があると思われる。

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.13 映像ライブ配信

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

金山 知余

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：サーバ構築・メンテナンス補助

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要**学内で行われる講習会や講演会のライブ映像配信の要求に対応するため、リアルタイムストリーミングサーバを構築し、サービス展開を行う。また、リアルタイム配信と同時に、さまざまな映像コンテンツのストリーミング配信も行えるよう環境の構築を行う。
2. **活動内容**
 - 学内で行われる講習会や講演会の映像をネット上でライブ配信できるサーバの構築と移設の準備が整った。(既設サーバの老朽化による更新)。
 - サーバの構築が遅れたため、メディア基盤センターからのお知らせコンテンツや注意喚起などを配信する“メディア基盤センターチャンネル”の作成には至らなかったが、引き続き検討する。
3. **今後の展望**
 - 映像のライブ配信要求への対応
 - 蓄積コンテンツの有効活用（既存の映像コンテンツのコンテンツアーカイブシステムへの移行）
 - ストリーミング配信を利用した広報活動（メディア基盤センターチャンネル制作）

2.2.14 3D プリンタ導入検討

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

担当：導入検討と技術支援

akai@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：造形物作成の技術支援

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要**近年急速に利用が高まっている三次元造形装置（3D プリンタ）の導入を検討する上で必要な情報（ニーズ、ランニングコスト、方式、設置場所等）を調査し、サンプル造形物を作成する。
2. **活動内容**
 - 現在市販されている 3D プリンタについて、方式、ランニングコスト等を調査し、山口大学での導入に最適な方式を調査した。
 - ランニングコストが低く、3D スキャナ搭載で比較的高精度で造形できる 3D プリンタを購入した。
 - 埋蔵文化財資料館所蔵の土器を 3D スキャナでスキャンして、造形を行った。造形パラメータの設定によっては表面のデジタルノイズが目立つ場合もあるが、目的に耐えうる精度でのスキャンと造形ができることがわかった。
3. **今後の展望**

造形物に合わせた適切なパラメータ設定を検討する必要がある、引き続き造形物の出力を試行錯誤する必要がある。

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.15 電力スマートグリッド開発

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

担当：省エネ化技術支援

akai@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要**平成 25 年度、サーバ室消費電力の省エネ化および大規模災害時の電力に対する耐障害化を目的に、ディーゼル発電機、太陽光と風力による発電装置、無停電源装置（UPS）が導入された。しかし、現状では、発電機による電力供給時には、太陽光と風力による発電は利用することができない。そこで、これらの電力装置をスマートグリッドとして接続し、それぞれの発電電力を状況に応じて自由に無駄なく利用できるシステムを構築する。

2. 活動内容

- 大規模発電にすでに実用化されているスマートグリッドを小規模発電システムに適用するための検討を行った。ディーゼル発電機を稼働させながら、風力発電装置を連携させる場合、電圧変動、周波数変動を含めた逆潮流防止制御を行う必要があるが、制御回路なくしては、ディーゼル発電機の補償範囲を超える可能性があり、実現できないことがわかった。
- システムの実用化を目指し、将来的な企業との共同開発に必要な検討材料を収集した。

3. 今後の展望

- 小規模発電システムに適用できるスマートグリッド制御の実用化を目指す。
- 各種メーカー製品の保証対象外の動作を必要とするため、運用環境とは回路を切り離した実験環境を構築しなければならないことが明らかとなった。

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.16 ネットワークマナーブック改訂

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

國分 倫子

情報環境部情報推進課情報基盤係・事務補佐員

担当：挿絵制作

n.kokubu@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

共通教育情報リテラシー演習および情報セキュリティ・モラルの講義で副教材として利用されている「ネットワークマナーブック」であるが、これまで小さな修正をしてきているものの、大規模な改訂は行っていない。そこで、今のネットワークセキュリティを知るために必要なネットワークマナーブックの構成を再検討し、文章の改訂など全面的な改訂に取り組む。

2. 活動内容

- 掲載内容の検討、文章の追加と改訂、挿絵等のリニューアルを行った。
- すべての作業をスタッフで行ったため、印刷以外の経費はかからなかった。

3. 今後の展望

- 今後も数年に一度の大規模改訂を予定すべき。

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.17 大学向け ERP モデル概念設計

【D.業務・教育研究課題】

永井好和

メディア基盤センター・准教授

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

テキスト作成

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要** 本学内では、情報システム届出制度運用の結果、おおよそどの様な情報システムが稼働しているかが把握できている。一方、大学 ICT 推進協議会 (AXIES) では、アカデミッククラウド環境構築にかかるシステム調査も実施され報告も提示されている。これらは、国立大学における教育・研究・業務運営などの業務を支える情報システムをある程度網羅していると考えられる。そこで、国立大学における ERP の実現可能性を探る為、調査を行った。
2. **活動内容**
 - (1) 情報システム届出制度で届出られた情報システムを整理分類し、大学行政管理学会の学会誌に事例報告として掲載した。
 - (2) AXIES のアカデミッククラウド環境構築に掛るシステム調査結果報告を入手した。
3. **研究報告**
 - (1) 永井好和, 石橋 英二, 多田村克己, 小河原加久治 ; 「学内情報システム届出制度の効果と課題～ 国立大学における学内情報システムの統制に向けて～」, 『大学行政管理学会誌』, No.17, pp55-66, (2014)
4. **参考文献**
 - (1) 「アカデミッククラウド環境構築に係るシステム研究」の成果報告書
http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/docs/ac/ac_report.pdf

4/6/2015 11:36 AM

2.2.18 知的財産センターへの ISMS 導入

【D.業務・教育研究課題】

永井好和

メディア基盤センター・准教授

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当： ISMS 導入支援

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

木村 友久

知的財産センター・教授

担当：知財センター導入取り纏め

t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要** 2013 年度迄の ISMS 適用範囲に、知的財産センターを加えて 2014 年度の ISMS 活動を実施した。(CIO 承認済み) 知財センターの人的適用範囲に加えるのは、3 人の教員である。知財センターから 1 名、メディア基盤センターから 2 名からなる WG として、秋の更新審査まで活動を実施した。
2. **活動内容**
 - (1) 定期的にミーティングを持って主要 ISMS 文書の改訂や今年度のリスクアセスメントを実施した。
 - (2) 2014 年 9 月の更新審査において、拡大済み適用範囲について認証を受けることができた。
 - (3) 新たに ISMS 適用範囲に加わる教員への ISMS 講習会を実施した。

4/6/2015 11:54 AM

2.2.19 UPKI 証明書プロジェクト

【D.業務・教育研究課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：システム構築・運用支援・登録

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：システム構築・運用支援・登録

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

担当：システム構築・運用支援・登録

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用

momo@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

山岡 恵美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

yamaoka@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

国立情報学研究所(NII)の電子証明書発行プロジェクトが事業化され、2015年1月より次期証明書発行サービスが開始される。次期サービスは有償化され、従来のサーバ証明書に加えてクライアント証明書やコードサイン証明書、EV(Extended Validation)証明書の発行にも対応する予定となっている。また、現行の証明書発行プロジェクトは2015年6月末で終了となり、証明書が2015年7月以降に一斉失効する予定である。本プロジェクトでは、次期サービスへの対応について検討する。

2. 活動内容

UPKI 電子証明書発行サービスの開始に合わせて、参加申請手続きを行い、参加が承認された。サービス内容として、これまでと同様、OV(Organization Validation)証明書の発行申請サービスを継続することとした。

サービス利用料金は、参加機関の常勤の教員および研究者の人数によって異なり、本学は年額 80,000 円程度となるが、学内利用管理者には費用負担を求めないこととなった。

3. 今後の展望

今後、以下について検討する必要がある。

- ・ クライアント証明書やコード署名用証明書の提供について
- ・ 発行対象ドメインの制約緩和について

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.20 演習用計算機システムの管理・保守

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：管理

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：管理・保守

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

担当：管理・保守

akai@yamaguchi-u.ac.jp

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：管理・保守

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：管理・保守

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：管理・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：管理・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

山岡 恵美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

yamaoka@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

電子計算機システムや教育用計算機システムにおける演習用端末・プリンタの管理・保守を行う。また、演習端末へのソフトウェアの導入・更新等を実施する。

2. 活動内容

以下を実施した。

- ・ 演習用端末やプリンタなどの管理・保守

- ・ OS および導入ソフトウェアのアップデート、新規ソフトウェアのインストール、購入済みソフトウェアのライセンス更新などの PC リフレッシュ作業への対応
- ・ 演習用アプリケーションサーバおよびクライアントの管理・保守
- ・ 医学部 CBT 試験サーバおよび試験端末の準備

3. 今後の展望

- ・ 医学部 CBT 試験の安定運用
- ・ 定期的な巡回体制に関する検討

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.21 バックアップ電源施設運用開始プロジェクト

【業務課題】

赤井光治

メディア基盤センター・准教授

akaikoji@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：計画の実施

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：計画の実施

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは ISMS における TF23: 省エネ・バックアップ電源システム管理に対応するプロジェクトであり、2014 年 3 月末に新規導入されたバックアップ電源施設をそれが必要になった時に適切な対応ができるよう、維持・管理の方法を検討し、それを実施することを目的としている。

2. 活動内容

今年度はシステムが導入されたところである。

(1) システムの運用・管理を開始した。ここで、想定するシステムは常盤キャンパスおよび山口キャンパスに設置された自家用発電システムを主に想定しているが、風力発電や太陽光発電の運用・管理も関連している。これらのシステム運用については以下の通り。

- ▲ 自家用発電システムについては、定期点検および計画停電時における動作確認により運用の維持管理を行う。
- ▲ 太陽光発電については定常的に稼働しているが機械的な稼働部が無い場合、必要に応じて不定期に動作確認を行う。なお、事務棟 2 号館（吉田キャンパス）に設置した太陽光発電システムについては、パワーコンディショナーの騒音問題のため、防音対策後稼働させた。福利厚生棟（常盤キャンパス）のパワーコンディショナーについても工学部設置の自習室の学習環境にも影響が出ている。こちらは、対応の検討中。
- ▲ 風力発電システムについては、機械稼働部があるため、必要な手順を定め運用を開始。このシステムは騒音など周りに対する影響を確認するため、試験的な導入の意味があり、継続的にモニタリングを行う。これについて、騒音による苦情は出ていない。一方、夕方に風力発電のプロペラが太陽光を断続的に遮るため D 講義棟の講義室内で太陽光にちらつきが発生するとの問題が出ている。今後、調査

が必要。

(2) 定期的に予定されている計画停電を利用し、運用・管理の問題点を確認した。吉田地区のシステムについては、10 月に行われた計画停電時に自家発電システムが正常に稼働し、他のシステムとの連動についても支障が無いことが確認された。一方、常盤地区の 3 月に行われた計画停電時には自家発電システムが正常に起動しなかった。これにより、システムが起動しない場合の対応・対策および今回のシステム上の問題点を確認することができた。

3. 今後の展望

今年度の運用状況をふまえ、適正な管理・運用を進めて行く。また、問題点等については検討・対策を進める。

[ここをクリックして日付を入力してください。](#)

2.2.22 修学支援システムの連携強化プロジェクト

【業務】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：システム設計

hisa@yamaguchi-u.c.jp

山岡 恵美子

メディア基盤センター・技術補佐

担当：事務連絡

yamaoka@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

科目等履修生・留学生などの履修手続きを電子化するための修学支援システムと Moodle 教育支援システムとの連携強化を行う。

2. 活動内容

- (1) 学務係との協議を行う。
- (2) 大学教育センターとの協議を行う。
- (3) 山大 ID を使った個人認証に対応するためのシステム（運営）変更を提案する。

3. **今後の展望** SHIBBOLETH 認証による S S O を用いて修学支援システムとの連携を強化する。

平成 27 年 4 月 7 日

2.2.23 常盤センターサーバー室空調保守

【業務課題】

赤井光治

メディア基盤センター・准教授

akaikoji@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

西村 世志人

メディア基盤センター・技官

担当：計画の実施

nomo@yamaguchi-u.a.c.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐

担当：実施の補佐

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

常盤センターではサーバーなど多くの機器が稼働しており、空調が安定稼働のために必須となっている。このため、空調の障害対策が重要であり、そのための保守対応を実施する。また、サーバー室の温度・湿度について、適切な環境を維持するための、障害対策を実施する。

2. 活動内容

空調保守点検の実施を行い、システムに障害が無いことを確認した。

2.2.24 IC カードプロジェクト

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

永井 好和

メディア基盤センター・准教授

担当：

ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

教職員用の IC カードの発行は大学情報機構で対応していますが、他の機器や導入の関係で、必要経費はメディア基盤センターで対応している。この IC カードを利用した、「入室管理システム」「出席管理システム」などのアプリケーションの整備、運用を行っている。これまでの、アプリケーションの導入は次のとおりである。

・ IC カード管理システム

教職員は、発行・再発行及び関連システムとの連携について、一貫した管理を行なう。

学生は、生協が発行する情報を取得し、関連システムと連携を行なう。

図書館の入室ゲートや図書館システムなどの IC カードによる認証系のシステムとの連携を行なっている。

・ 入室管理システム

建物及び部屋の開錠に IC カードをもちい、入室者、開錠、施錠、開扉、閉扉なので状態をログとして記録する。

17 年度 メディア基盤センター吉田センターと常盤センターの玄関に IC カードによる入退室機器を設置。

18 年度 吉田地区及び常盤地区のサーバ室及び業務室に設置。

19 年度 小串地区サーバ室及び事務室に設置。

20 年度 業者委託体制の推進

25 年度 複合機カード・貸出カード等の業者委託調整

・出席管理システム

세미나、講習会の出席者確認のため、IC カードリーダー付きのノート PC に IC カードをかざすことで、出席者の一覧を作成するプログラムを開発し、運用等を行っている。

メディア基盤センター3センター以外にも、各部局「医学部」「農学部」「工学部」等で利用されている。

学生の出席確認システムへの協力

大学教育センター、医学部、工学部（一部実験）

・ 応用分野の開拓

例：機器使用履歴管理、パスワード再発行など

2. 活動内容

1. ポータブル型出席確認システムの運用試験を継続し、教室に機器を設置した。
2. 出退勤記録用にシステムの改修を行った。2015 年 4 月より利用開始予定
3. システム等の利用記録への対応を行った。
4. 複合機カード・貸出カード等を業者委託を実施するために発行システムの改修を進めた。
5. IC カード関連システムの維持運用につとめた。
6. 吉田センターTV 会議室および演習室について新バージョンの入室管理システムの調整を進めた。

2.2.25 TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

小田切 和也

メディア基盤センター・准教授

担当：

odagiri@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

Kayo0217@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

現在では、TV 会議や遠隔講義は日常的に利用されており、障害が発生すると、大学の活動に支障をきたす状況になってきている。

大学内には、TV 会議システムとして次の 3 システムがる。

- ・第 1TV 会議(平成 7 年度導入、20 年度改修)
- ・第 2TV 会議(3 地区図書館、大学教育センター) 25 年度改修
- ・メディア基盤センターTV 会議(3 地区メディア基盤センター)

- ・東京リエゾンオフィス(現東京事務所)TV会議

遠隔講義システムは、以下のシステムが導入された。

- ・共通教育用遠隔講義(平成 9~10 年度導入、21 年度改修)
- ・大学院用遠隔講義(平成 18 年度導入、22 年度一部改修)
- ・農学部遠隔講義
- ・共同獣医学部遠隔講義
- ・教育学部遠隔講義
- ・ウダヤナ大学(インドネシア)・工学部間遠隔講義(平成 22 年度導入)

平成 22、25 年度の改修以降は接続方式の共通化を行っており、TV 会議システム及び遠隔講義システムのそれぞれの会議室・講義室間での相互接続が可能となっており、教室の収容人員、設置場所、空き状況に応じて講義室が利用されており、遠隔講義は任意の組み合わせで実施される。現在、相互接続可能でよく利用される学内の遠隔講義システム及び TV 会議システムを以下にまとめる。

遠隔講義室・TV 会議室一覧 2015 年 4 月現在

講義室

地区	棟	階	部屋
吉田	共通教育講義棟	1	1 番教室
	メディア教育棟	1	メディア講義室
	メディア教育棟	2	演習室 2
	理学部 2 号館	1	第 15 講義室
	農学部本館	4	第 6 講義室
	農学部本館	4	第 7 講義室
	大学会館	1	大ホール
常盤	E 講義棟	3	E31 講義室
	D 講義棟	1	D11 講義室
	D 講義棟	2	D21 講義室
	D 講義棟	3	D31 講義室
小串	講義棟 C(臨床講義棟)	2	第 3 講義室
	総合研究棟	8	多目的室
	総合研究棟	1	S1

会議室

地区	棟	階	部屋
吉田	事務局 1 号館	2	第 1 テレビ会議室
	共通教育棟	2	第 2 テレビ会議室
	総合図書館	3	第 2 テレビ会議室
	事務局 2 号館	2	情報推進課電子計算機室前室
	メディア教育棟	3	テレビ会議室

常盤	会議棟 1	テレビ会議室
	工学部図書館 1	第2 テレビ会議室
	メディア基盤センター棟 2	テレビ会議室
小串	医学部本館 6	テレビ会議室
	医学部図書館 2	第2 テレビ会議室
	基礎研究棟 1	メディア基盤センター事務室
その他	東京事務所	TV 会議室
	MOT 福岡教室	
	MOT 広島教室	

なお、ここに示したものの以外のシステムも存在している。

これらのシステムの安定運用を図るために、適宜、故障機器の交換や、より安定化などの日常的な対応を行う。

2. 活動内容

1. TV 会議、遠隔講義システムの運用・維持に努めた。
2. 総合理工学特別講義棟の3地区を接続する講義について、講義開始の時間的トラブルを解消するために多地点接続装置に対応を行った。
3. 他組織(放送大学・JICA等)との遠隔講義やTV会議が多く行われるようになり支援を行った。

3. 今後の展望

大学会館、及び東京事務所の遠隔講義システム及びTV会議システムは、老朽化等により機器の動作不良が発生する場合があります、都度対応してきたが、今後更新が必要となる。

2.2.26 省エネルギー化プロジェクト

【業務＋教育研究課題】

小河原加久治

メディア基盤センター・センター長

ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

担当：プロジェクト計画・実施

akaikoji@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：プロジェクト実施

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：プロジェクト実施

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、学内の情報基盤として重要な役割を持つメディア基盤センターサーバー室において、既存の役割と共生しつつ可能な省エネルギー対策について、検討とその有効性を研究することを目的としている。

また、サーバー室のような集約的なシステムが集まる場所以外でも、人が活動する空間では空調が消費電力量の大きな部分を占める傾向を持つ。このような場所では省エネに対して「見える化」による効果が期待されている。「見える化」による省エネ効果についても検討をおこなう。

2. 活動内容

前年度のメディア基盤センターサーバー室の省エネ対策に引き続き、気流制御による省エネの可能性を検討する。項目としては、(1) サーバー室の気流制御による空調の省エネ効果の検討。(2) サーバー室のエネルギー効率の検証。また、(3) 総合図書館の改装により新たな空調や熱交換システムが導入されており、効率的な運用により適切な学習環境と省エネの共存方法について検討、を予定していた。以下、これらについて説明を行う。まず、(1)について、今年度新たな取り組みは行っていない。現在、気流制御の情報収集に関する準備を行っている段階である。(2)については、サーバー室の空調電力量の情報収集システムがシステムメンテナンスの問題で停止していたが、これを解消した。最後に(3)について、昨年度導入したシステムによる情報収集を継続して行った。

3. 今後の展望

(1)および(2)についてはサーバー室の移設に向け、情報収集と検討を継続する。
(3)については、空調の電力測定と既設の室内温度湿度計測システムとの連動による省エネ対策の検討。また、それらの知見を常盤図書館改修に役立てることが期待される。

4. その他

本プロジェクトでは、総合図書館、工学部技術部、施設部およびと宇部高専と連携し実施した。

2.2.27 迷惑メール対策システム

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：サブリーダー

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

18年度に導入した迷惑メール対策サーバの迷惑メールパターンファイルを随時更新する必要があります。
スパムメールへの当面の対応策を検討し実施するとともに、高性能のスパムフィルタの開発に関する基礎的研究を実施する。

【これまでの経緯】

- 平成18年8月 7日 迷惑メール対策サーバ説明会
- 9月26日 試行機により試行開始
タグ付けサービスの開始
- 10月23日 本稼動機による試行の継続
- 平成19年4月12日 隔離サービスの開始
- 平成19年11月4日 宛先不明メール受信拒否の実施(学外発学内向メール)
- 平成20年7月15日 対策サーバの2重化
- 平成20年10月 メーリングリスト学内限定措置の実施(希望者のみ)
- 平成27年2月24日 新サーバ (SPAM & VIRUS FIREWALL Plus 400) を導入・設置
- 平成27年3月5日 2015年3月5日 新サーバの再調整・動作検証開始
- 平成27年4月1日 新サーバ運用開始

【迷惑メール対策サーバ】

- BARRACUDA 社 SPAM FIREWALL Plus 400 (2015/4/1～)
- 筐体とサーバソフトが一体となったアプライアンス商品
- 定期的(1時間毎)に迷惑メールのパターンファイルを更新し、常に新しい迷惑メールに対応している。

【タグ付けサービス】

迷惑メール対策サーバが迷惑メールと判定したメールについては、サブジェクトに[YU-SPAM-CHK]のタグをつけて利用者へ配送

【隔離サービス】

迷惑メール対策サーバが迷惑メールと判定したメールについては、配送を保留し、利用者には配送しない。
1日に1回、1日分の配送保留メールのリストをメールで送り、利用者が必要なメールがあるかどうか確認する

必要なメールがある場合、「配送」をクリックすることで、利用者へ配送される。

隔離スコアを調整することにより、隔離メールの度合いを調整できる

【利用者数】 1,008人(平成27年4月6日) 1,033人(平成21年5月31日)

2. 活動内容

迷惑メール対策サーバの保守が終了したため、新機種に機器更新をした。

平成27年2月24日 新サーバ(SPAM & VIRUS FIREWALL Plus 400)を導入・設置

平成27年3月5日 2015年3月5日 新サーバの再調整・動作検証開始

平成27年4月1日 新サーバ運用開始

ソフトウェアライセンスは1年分付いている。

2.2.28 全学ネットワークの維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

小田切 和也

メディア基盤センター・准教授

担当：

odagiri@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

全学の学内 LAN 及び対外接続等の学内のネットワーク(部屋内のネットワークをのぞく)への維持・管理・運営を行っている。障害・故障への対応や、利用需要にあわせた機器の増設、通信容量の増強等を行っている。

全学の学内 LAN の中でメディア基盤センターが保守しているのは、下記のとおりである。

1. 吉田・常盤・小串地区においては、幹線部分と、建物の機器室までの部分

(機器室から各部屋への配線は施設及び各学部で、部屋内については、部局及び研究室で対応)

(新規建物や改築等で導入する場合は、機器は部局、配線は施設が対応するが、その後、機器についてはメディアが対応)

2. 附属学校においては、幹線部分(機器室含む)

ただし、耐震改修等が終了し、大学標準のネットワーク構成となった学校については(山口中学校、光中学校)

主要キャンパスと同様な厚いかとなっている。

3. 仁保にある電波天文台および東京リエゾンオフィス等の幹線部分

4. 学外接続

2. 活動内容

1. 引き続きネットワークの運用・維持に努めた。特に学外接続部分の老朽化対応(機器交換、設定変更等)を実施した。
2. 25年度の改修・新営工事の残作業の対応をおこなった。
3. 26年度の改修・新営工事について対応をおこなった。
(ア) 吉田地区 獣医学部棟、女子寮
(イ) 常盤地区 常盤寮
(ウ) 小串地区 新中央診療棟増設部分、駐車場、新病棟建設に伴うケーブル移設
4. 大学通りの道路改修において本学所有の光ファイバの地下埋設工事への対応を進めた。

2.2.29 各種サーバ（大容量サーバ・メールサーバ等）の維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

杉井 学

メディア基盤センター・准教授

担当：

manabu@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

メディア基盤センターがサービス提供しているメールサーバ及び大容量サーバは、日常的に利用されており、常に安定的に運用する必要がある。

メールサーバや大容量サーバは大容量の HDD を有し、RAID1 及び RAID10 で運用しているので、HDD が 1 台故障してもすぐ動作停止にはつならないが、その際、HDD を交換する必要がある。本体が壊れた場合は、予備機に HDD を交換し稼働させる必要がある。

また、大容量サーバは、利用者がディスクスペースとして利用しているので、利用頻度が上がれば容量が不足してくる。そのため、常に HDD の増設、機器の増設が必要である。

利用者、利用量の増加に伴い、性能が不足する場合は発生してきている。性能が不足するものについては、機器を 2 重化するなど、性能改善の対策が必要である。

大容量サーバは、山口大学や各部局等のホームページや職員ポータルなどに利用されている。

メールサーバは、全学公式メールアドレスのサーバとともに、本学内外へのメール配送を制御に利用されている。

認証サーバは、全学共通の認証システムのサーバとして学内に認証を提供している。

2. 活動内容

1. ホスティング及びハウジングのメニューに基づいて、サーバの運用・維持を行うとともにプライベートクラウドサーバの活用を進めた。

2. メールサーバの更新までにメールサーバのクラウド化の検討を進める。メールを保存するファイルサーバと **imap,pop** 機能を提供するサーバに分離し、**imap,pop** サーバをクラウド化をすすめ、実験運用を開始した。
3. 学内の以下の情報システムをプライベートクラウドの移行支援とクラウドの提供を行った。
 - (ア) 工学部知能情報工学科ライセンスサーバ
 - (イ) 事務 LAN 運用管理サーバ
 - (ウ) 研究力分析システム
 - (エ) 協働学習支援システム
 - (オ) 他 2 件
4. ホスティングサーバのディスクの増設を行った。教職員ポータルサーバ等のハードディスクの増強をおこなった。
5. 老朽化・高負荷なサーバへの対応を優先しておこない、プライベートクラウドサーバに移行できるものについては随時移行を進めた。

2.2.30 サーバ室主要部分の設備維持

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

メディア基盤センター常盤センターサーバ室に覇、全学にサービスを提供しているネットワーク機器及びサーバ機器が存在する。それぞれ、ネットワーク用ラック、サーバ用ラックに設置されている。

平成 19 年に、学内及び学外の幹線ネットワーク機器の配線と機器を収容しているラックの耐震等の工事を行なっている。

平成 23 年度にサーバ用ラックについて、耐震等の工事を行った。

平成 25 年度に吉田センターサーバ室を情報推進課サーバ室へ移転を進めている。また、「学術情報資産の効率性・安全性確保のためのクラウド化による集約管理システムと省エネルギー設備」を導入した。これらが実際に 26 年度から稼働を開始する。稼働にあたって必要な運用管理及び維持保守を行う。

2. 活動内容

1. 吉田センターサーバ室の移転を進めた。移転に必要な電源工事等を実施した。
2. 学術情報資産の効率性・安全性確保のためのクラウド化による集約管理システムと省エネルギー設備」の開始に際し、運用管理及び保守維持を行った。
3. 大型蓄電池装置の老朽化対応を行った。吉田地区の 1 台は、別途経費において機器更新を行った。常盤地区の 1 台については、2 のシステムで導入した大型蓄電池装置の置換えのための電源工事等を実施した。サーバ切替は随時実施する予定である。
4. 常盤センターサーバ室の脆弱なガラス扉について、リスクアセスメントを実施したが、改修までは行わないこととなった。
5. 引き続きサーバ室の運用・維持に努めるほか、次の計画に対応する。

2.2.31 高速計算サービス運用プロジェクト

【業務】

赤井 光治

メディア基盤センター・准教授

akaikoji@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：プロジェクト実施

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐

担当：利用登録・管理

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：プロジェクト実施

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要

科学・技術計算を必要とする研究・教育活動支援のために計算環境の提供および支援を行う。

2. 活動内容

- (1) 計算機クラスター利用プロジェクトを実施し、研究支援を行った。
- (2) 九州大学情報基盤研究開発センターとの計算機利用包括契約により、同センターのスーパーコンピュータおよびアプリケーションサーバの占有利用サービスを提供した。
 - ① 高性能演算サーバー：16 ノード
 - ② アプリケーションサーバ：4 ノード
- (3) メディア基盤センターで運用する計算機クラスターの運用・保守を行った。

3. 今後の展望

H27 度のサービスについてはメディア基盤センターの Web ページでアナウンスさせていただきますので、ご覧下さい。

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/guides/gakunai/computingsystem/>

2.2.32 IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験

【D.業務・教育研究課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

小河原 加久治

メディア基盤センター・センター長

担当：統括

ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括・システム構築

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

石田 春磨

メディア基盤センター・助教

担当：システム構築・運用

ishidah@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. **プロジェクト概要** 現在、学生証を利用した出席管理システムの整備が進められており、大学教育センター、医学部、農学部、工学部(一部実験)等で運用されている。本プロジェクトでは、不登校学生の早期把握や学生の安否状況把握を目的として、IC カード出席管理システムを利用した学生の登校状況の確認を実験的に行う。

2. 活動内容

工学部機械工学科にご協力いただき、対象となるクラスが使用する教室へ IC カードリーダー出席管理システムを設置した。

・ 常盤キャンパス

➤ D 講義棟：12 番教室、31 番教室、情報処理演習室

➤ E 講義棟：12 番教室、31 番教室

設置のための費用は、IC カードプロジェクトより支出させていただいた。

3. 今後の展望

工学部機械工学科にご協力いただき、IC カードリーダー出席管理システムで、複数の授業を横断した学生の出席状況や活動状況、安否状況が把握できるか検討する。

平成 27 年 4 月 6 日

2.2.33 Webmail の管理・保守

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：メール・認証・ファイルサーバ等調整

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：サーバ構築・管理・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：サーバ構築・管理・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

1. プロジェクト概要 Webmail の管理や保守、その他

2. 活動内容

以下を実施した。

- ・ Webmail サーバの維持・管理
- ・ ソフトウェア「Risumail」年間保守契約の更新によるバグフィックスやセキュリティアップデートへの対応
- ・ 演習用 Webmail サーバの機能改善
- ・ プラグインやその他動作の検証・見直し

3. 今後の展望

- ・ 安定運用のための機能改善の継続
- ・ 新 Webmail テストサーバの構築

平成 27 年 4 月 6 日

3. センタースタッフ紹介

	センター長・教授 ^(*)	小河原 加久治
常盤センター	副センター長・教授 ^(*)	多田村 克己
	准教授	永井 好和
	准教授	杉井 学
	准教授	爲末 隆弘
	助教	石田 春磨
	技術専門職員	西村 世志人
	技術補佐員	奥本 紀美子
吉田センター	副センター長・教授 ^(*)	西井 淳
	教授	久長 穰
	准教授	赤井 光治
	准教授	小田切 和也
	技術専門職員	金山 知余
	技術補佐員	守永 佳代
小串センター	副センター長・教授 ^(*)	藤宮 龍也
	准教授	王 躍
	技術補佐員	東 美織

*は併任スタッフ